

1. 資料情報提供

①平成 22 年度のサービス概要と業務報告

<サービス指標>

① 人口（推計） ※1	389,311 人	登録率 ※4	②/①*100%	40.9%
② 個人登録者数	159,368 人	市民一人当り貸出冊数	④/①	8.9 冊
③ 蔵書冊数	1,125,644 冊	登録者一人当り貸出冊数	④/②	21.8 冊
④ 個人貸出冊数	3,470,028 冊	利用者一人当り貸出冊数	④/⑥	3.4 冊
⑤ 団体貸出冊数	123,609 冊	市民一人当り蔵書冊数	③/①	2.9 冊
⑥ 貸出人数	1,011,799 人	職員一人当り貸出冊数	(④+⑤)/⑨	28,749 冊
⑦ 年間受入冊数	47,363 冊	市民一人当り図書館費	⑩/①	2,564 冊
⑦-1 うち購入冊数	40,651 冊	市民一人当り図書購入費	⑫/①	166 円
⑧ 年間除籍冊数	36,905 冊	市民一人当り消耗品的資料費	⑬/①	33 円
⑨ 職員数 ※2	125 人	購入図書平均単価	⑫/⑦-1	1,586 円
⑩ 図書館費（決算）	998,024,583 円	一冊当り貸出コスト	⑩/ (④+⑤)	278 円
⑪ うち人件費	664,019,236 円	蔵書回転率	④/③ ※5	3.1 回
⑫ うち図書購入費	64,487,502 円	蔵書新鮮度	⑦/③ ※6	0.042
⑬ うち消耗品的資料費※3	13,024,000 円	蔵書更新率	(⑦+⑧)/③*100% ※7	7.5%
⑭ 一般会計歳出	127,784,996,700 円	図書館費/一般会計歳出	⑩/⑭*100%	0.78%
⑮ 教育費	10,708,268,233 円	図書館費/教育費	⑩/⑮*100%	9.32%
⑯ 社会教育費	1,515,945,604 円	図書館費/社会教育費	⑩/⑯*100%	65.84%

※1 人口…平成 23 年 4 月 1 日現在。

※2 職員数…平成 23 年 4 月 1 日現在の人数で、正職及び短時間職員、再任用職員、嘱託職員、臨時職員の合計。

※3 消耗品的資料費…新聞、雑誌、CD等の資料費。

※4 登録率…昭和 63 年以降、登録更新未実施。平成 17 年度より有効期間 5 年の更新処理実施中。

※5 蔵書回転率…一冊の蔵書が平均何回貸し出されたかを示す。

※6 蔵書新鮮度…ある期間に新規に受入れた図書冊数をその期間の終わりの蔵書冊数で割った数値で、蔵書がどれだけ新しくなっているかを示す。

※7 蔵書更新率…除籍された資料数も含めて、更新された割合を示す。

<ホームページアクセス件数の推移>

トップページ	1,085,630 件	ログイン認証画面	1,027,046 件
詳細検索画面	1,217,387 件	携帯電話サイトトップページ	62,647 件
検索結果一覧	28,379,179 件	新聞記事見出し検索トップページ	1,491 件
検索結果書誌詳細	1,703,388 件	北摂アーカイブストップページ	72,466 件

②個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

昭和 24 年に資料・情報提供の基礎となる個人館外貸出を開始した。昭和 63 年野畑図書館開館時から順次コンピュータシステムを導入し現在に至っている。

平成 22 年度の成人書の個人貸出冊数は 2,106,202 冊（対前年比 2.4%減）、14 歳以上の大人の個人貸出人数は、840,900 人（対前年比 0.7%減）となっている。ホームページや音声応答サービス等を通じて簡単に継続貸出手続きができるようになり、利便性があがった反面、直接来館の機会が減ったことが要因として考えられる。館内 OPAC・Web での継続冊数は 126,114 冊（対前年比 31.2%増）となっている。館によつての増減の幅は顕著であり、千里、服部図書館は増加しているが、庄内幸町、高川、東豊中、野畑、庄内、岡町図書館は減少している。

貸出の傾向としては、以前のようなじっくり書架を見て関連資料をまとめて借りる利用から、インターネットや携帯サイトから必要な資料だけをリクエストしてカウンターで受取る利用へと、図書館活用の方法にも変化が見られ、一人当たりの貸出冊数も減少している。図書購入費が潤沢でない現状では、複本購入を最小限に抑えざるを得ない。また、リクエストや返却の多い館に新鮮な資料が留まらないよう、さらに館間で定期的な資料の入れ替えを行うなどの工夫が必要である。今後も、利用者にとって新鮮で充実した書架づくりを目指すために、CDなどのAV資料についても継続的に収集していきたい。一方、不明資料に対しては、マナー向上を呼び掛けるポスターを掲示するなどの対応をしている。

平成 22 年度より開始した岡町・庄内・千里・野畑図書館 4 館での祝日開館を活かし、新たな利用者層を開拓していくことを目指す。今後はいかに各地域の利用者のニーズを把握し、サービス向上につなげていくかが継続的な課題である。

<こども室・児童書コーナー>

昭和 34 年、こども室が開設され、その翌年から貸出を開始した。

児童書の貸出冊数は、図書館が新設される年ごとに飛躍的にその数を伸ばし、0～14 歳人口が減少傾向にはいった平成 2 年以降もゆるやかに増え続けている。

この間、子どもへの直接的なサービス以外に、ボランティアを支援するための講座や「豊中子ども文庫連絡会」との共催事業などを通じ、子どもに関わる大人を対象としたサービスを始めた。全市的な子どもの読書環境整備において、全校への学校司書の配置や、「子ども読書活動推進計画」に関わる取組みが進んだこともその背景にある。これらの図書館内外での子どもと子どものまわりの大人への継続的な働きかけが、児童書貸出の増加につながっている。

平成 22 年度の児童書の貸出冊数は 964,773 冊（対前年比 2.3%増）であった。特に乳幼児の利用は近年増加傾向にある。こども室では4か月児健診時の「えほんはじめまして」や、そのフォローアップ事業である「えほんにたっち」「すくすくあかちゃんタイム」を行い、0才とその保護者に対して絵本に親しんでもらえるよう事業を進めてきた。また乳幼児を対象としたおはなし会、子育てサロン・子育てサークルなどへの出前講座も定期的に行っている。これらの取組みが効果をあげていると考えられる。

また小学生・中学生の利用も増加した。これらの世代に対しては、小学校3年生の図書館見学「ようこそ図書館へ」、中学生の職場体験学習（CUL）の受け入れなど、学校と連携した事業や、学校図書館を通して資料提供やレファレンスのサービスも行っている。

＜ヤングアダルトサービス＞

ヤングアダルトサービス（以下YAサービス）とは対象をおよそ12歳～18歳の世代とし1940年代にアメリカで始まったサービスで、日本では1970年代にこのことばが使われ始めた。

本市では、平成5年から小中学校に学校司書の配置が始まり、平成17年には全校配置が完了した。小中学校で9年にわたり、学校司書による図書館利用指導などを受けた子どもたちにも、ある時期図書館離れがみられることが課題であった。そこで、再び図書館や読書に出会ってもらえるよう、各館でコーナー作りなどを試行した後、千里図書館リニューアルを機にYAコーナーを設置し、本格的なサービスに取組みはじめた。千里図書館YAコーナーを開始するにあたっては、市民団体と意見交換を積み重ね、現在に至っている。

新しい試みとして、YAサービス担当の職員（兼務）を置き、千里図書館では近隣の中学校・高校との連携や子どもたちの力を借りた催し物の開催など、同世代の視点を取り入れたサービスを展開してきている。

平成22年度は、千里図書館に続き高川、東豊中でも読書案内やミニコミ誌の展示、蛍池では同じフロアの公民館との共用部分に一定期間中高生の居場所的空間を設ける取組みを行った。また、地域教育振興室と図書館の共催で、よみきかせ講座を実施した。

平成22年度の12～17歳の登録者の割合は全体の12%と前年度と変わらない。貸出人数の割合は21年度4.4%から22年度4.8%と、わずかだがYA世代の貸出が増えている。YAの蔵書冊数（図書室・団体を除く）の比率は、21年度が0.3%、22年度は0.6%と増えてきている。

YA図書というような一定の年齢層に対するひとくくりの資料群を定めることについては、さまざまな意見があるが、子どもでもなく大人でもない心も身体も成長過程にあるこの時期に、自分の生き方に影響を与えるような本や人との出会いが大切であると考える。

今後はさらにYA世代にとって魅力ある場、情報発信・情報交流の場、地域と未来につながる場としての図書館をめざして、全館的な取組みへとひろげることが課題である。

YA世代を対象とした取組み一覧

実施月	内容
平成22年4月	千里図書館にて大阪府立豊島高校生へのインタビュー
6月	近隣5校への「高校自慢アンケート」と学校情報提供依頼
8月	高川図書館 紙芝居ボランティアによる「紙芝居会スペシャル」
9月	千里青雲高校の文化祭に図書館紹介のパネルを出展
10月	千里青雲高校ダンス部が「コラボまつり」にてダンスを発表 「えほんカルタ」（コラボまつり）にスタッフボランティアとして高校生が参加 岡町図書館 穂村弘講演会「短歌の楽しみ」 ワークショップ「そうや、短歌を詠もう」
12月	千里図書館「ふゆのおたのしみ会」 YA世代ボランティア（高川・岡町）による工作とおはなし会
その他	「YA! BOOKS」5・6・7号 表紙など担当 大阪府立池田高校

③団体貸出サービス

団体貸出事業は、昭和 36 年「貸出文庫」という名称で始まり、会社・工場を対象とした企業内文庫や学級文庫への貸出を行っていた。昭和 48 年には団体貸出室が設けられて、アウトリーチサービスを主として担う形で、独立した部屋と資料および専任の職員が配置された。その後、「豊中子ども文庫連絡会」（以下、「豊子連」）との共催事業やおはなしボランティアを支援するための講座などを団体貸出担当が行ってきたことは、本市図書館の特色の一つである。

平成 5 年度からの学校司書配置にあわせて、団体貸出室から学校図書館への資料支援が始まり、その後対象となる学校図書館が増加するにつれて業務分担を見直し、各館の貸出室やこども室でも団体貸出サービスを担当するようになり、現在に至っている。

現在は、学校、放課後こどもクラブ、幼稚園、保育所（園）、子ども文庫およびおはなしボランティアグループ、高齢者施設、読書会、企業内文庫等自主的な活動グループで、10 人以上の利用者を有する団体に資料の団体貸出を行っている。貸出の期間や冊数は利用団体ごとに定めており、図書館では選書の補助などを行っている。また、おはなしボランティアを支援するため、「子どもと本をつなぐボランティア講座」や「おはなしボランティアフォローアップ研修講座」を実施した。

<学校図書館>

学校図書館は平成 5 年度から、学校司書の配置が始まった。これらの配置にあたっては、「豊子連」や「学校図書館を考え専任司書配置を願う市民の会」等の市民団体の活動があった。

毎年学校司書の配置が進むなかで、主に岡町図書館・団体貸出室が実施していたサービスは、平成 13 年度から市内 9 館それぞれのエリアで担当する形に変わった。この年学校図書館と学校図書館、学校図書館と公共図書館間の資料運搬システムが始まり、インターネットによる蔵書検索・予約サービスを開始した。平成 17 年の学校司書の全校配置から 5 年が経過し、近年は学校図書館の蔵書が充実し、学校図書館間で資料の相互利用が増えたこと等により、公共図書館からの資料提供はやや減少傾向で推移していたが、平成 21 年度よりインターネットからの継続貸出ができるようになり、提供冊数も 52,272 冊（うち継続貸出 10,962 冊）とやや増加した。

平成 21 年度からは学校図書館から資料補強を目的とした要望を受け、よみものや絵本を中心に 1 学期ごとに上限 50 冊の長期貸出を行っている。学校図書館への貸出については状況に応じてよりよい方法を、継続的に検討していきたい。

毎年、学校図書館と公共図書館の司書が地域ごとに交流会を行い、情報交換の場としている。また読み聞かせや情報検索をテーマとして新任学校司書研修に協力をしている。平成 22 年度の交流会では、各小学校で行われている「朝読」の実施状況や互いの活動・利用状況について報告と意見交換を行った。中学校司書との懇談会も前年度から継続して実施した。

今後も、児童・生徒の読書活動を支援するとともに、調べ学習等の授業への資料提供を行っていく。資料運搬システムの効果的な運用や、学校図書館を通じての教職員向けサービスの展開がこれからの課題である。

<放課後こどもクラブ・幼稚園・保育所（園）等>

平成 22 年度の保育所(園)の貸出冊数は 28,756 冊(対前年比 4.8%増)、幼稚園は 2,868 冊(対前年比 8.4%増)となった。平成 19 年度から私立幼稚園教諭向けに絵本講座、また平成 20 年度から民間保育所(園)の保育士向けに絵本講座を実施してきたことが、定期的な団体貸出の利用につながってきたと考えられる。また平成 21 年度より「幼稚園教育指導要領」と「保育所保育指針」が改定され、それぞれにおいて絵本や物語などに親しむことについて、言及されたことも一つの要因と考えられる。

放課後こどもクラブの平成 22 年度の貸出冊数は 12,672 冊(対前年比 0.3%減)、配本校は 40 校となっている。読み聞かせのボランティアグループへの貸出冊数は 14,031 冊(対前年比 33.2%増)となり、増加の要因としては、小学校の朝の読書の時間等でボランティアとして活動する市民(主に保護者)が増え、「おはなしボランティアポケット」にも多数の新規メンバーが加わったこと等が考えられる。今後も引き続き本や情報、研修の機会を提供し、活動の支援に努める。

また、蛸池人権まちづくりセンター、豊中人権まちづくりセンター児童館に対しても、行事や取組みに必要なテーマの資料を貸出している。人権まちづくりセンターでのおはなし会では、希望に応じて読み聞かせた本を貸出している。

<子ども文庫>

1960 年代後半から市内各地に子ども文庫が誕生し、子どもの読書環境整備に行政の手が行き届かない時代から地道な活動を続け、それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動を行ってきた。1970 年代後半には 30 文庫が活動し、現在 13 文庫ある(うち豊子連加入は 10 ヶ所)。子ども達の身近な居場所として、また子どもを取り巻く大人たちの交流の場として地域に根付いている。図書館では、文庫活動を支援するために、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供している。平成 22 年度は 5,105 冊の貸出があった。

<高齢者・福祉施設>

高齢者・福祉施設への団体貸出は各館でそれぞれ実施している。

高齢者施設は、高齢者人口増に伴い近年新たに建設され、図書館利用の需要も増加傾向にある。現在、各館の窓口で団体登録をし、施設が希望するジャンルに沿い、図書館が選書し貸出す場合と、施設利用者が職員とともに来館して借出す場合がある。

また同じく福祉施設への団体貸出についても、図書館がまとめて選書し配本する施設と来館での借出しをする施設があり、それぞれの事情に沿ったサービスを進めている。

平成 22 年度は、高齢者・福祉施設を合わせて 789 団体に 8,723 冊を貸出した。今後も各施設での団体貸出サービスの PR に努め、需要に合わせたサービスのあり方を探っていく。

④動く図書館による巡回サービス

昭和 25 年、動く図書館による巡回開始以来、平成 22 年に 60 周年を迎え、『豊中市立図書館 動く図書館 60 年のあゆみ』を発行した。全域サービスを実現するため市民の身近なところに資料を届ける役割を果たしている。動く図書館の駐車場所をステーションと呼び、施設の図書館と同様、資料の貸出・リクエストの受付・蔵書検索まで、オンラインでサービスを行っている。

<一般ステーション>

図書館から遠く離れた地域の市民に、動く図書館「とよ 1 ぶっくる」が約 3,000 冊の資料を積んで市内を巡回し、貸出を行っている。現在は 18 ヶ所を約 4 週間に 1 回巡回している。

<施設ステーション>

図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、動く図書館「とよ 1 ぶっくる」が巡回し、資料の貸出を行っている。平成 22 年 4 月現在、市立保育所 3 ヶ所、民間保育所 3 ヶ所、支援学校 2 ヶ所・障害児通園施設 2 ヶ所へ約 4 週間に 1 回巡回している。

平成 22 年度、動く図書館の年間貸出人数は 8,330 人（対前年比 7.0%減）、年間貸出冊数は 61,063 冊（対前年比 7.1%減）。施設貸出を含めた貸出冊数は 77,266 冊。猛暑の影響で夏期の貸出人数・冊数ともに前年度より減少傾向であった。22 年度も地域子ども教室カーニバルでの「とよ 1 ぶっくるがやってきた！」を実施し好評だったので、23 年度も引き続きの参加を予定している。

また、保育所 4 ヶ所では、卒園する園児のクラスを対象に、図書館職員によるおはなし会を行い、支援学校・障害児通園施設では市内のおはなしグループに依頼し「おはなし会がやってきた！」を実施した。

⑤図書室

いぶき図書室には約 6,700 冊の資料があり、週 2 回、水曜日と土曜日の午後 1 時から 5 時まで開室している。また、第 1・第 2 水曜日にボランティアの協力を得ておはなし会を行っている。平成 22 年度の貸出冊数は 23,291 冊で前年度より 30%増加している。定期的な蔵書の入れ替えや PR が、一定の成果をあげていることがうかがえる。

平成 20 年 12 月、豊島西小学校内に開室したバス図書室は車内に約 2,000 冊の資料を備え、週 1 回、日曜日の午後 2 時から 4 時まで開室している。車両更新にともない廃車となった動く図書館車旧「とよ 1 号」を図書館未整備地域の小学校校内に設置し、図書室として活用している。近隣地域に利用案内を配布するなど PR を行っている。平成 22 年度の貸出冊数は 1,530 冊で昨年度より 10%程度増加している。

⑥レファレンスサービス

調査・研究・読書相談・日常における疑問などについて、資料、情報の提供や関連機関の紹介、また書架の案内を含めた業務がレファレンスサービスである。豊中市立図書館では昭和 44 年から参考室を設け、当時から専任の職員を配置してサービスを行ってきた。利用者からの働きかけに応じて適切な資料を探し出し、提供する作業について、平成 19 年度より

参考室（参考図書コーナー）および貸出室カウンターにおいて詳細な統計を取りはじめた。調査・研究のための資料・情報提供のレファレンスをはじめ、書架・所在案内、書架・書庫からの出納件数、施設案内なども利用者からの問い合わせ項目としてあげているが、総数において73,601件（対前年比約65.7%増）となった。

これは、チラシの配布等により、e-レファレンスや新聞記事見出し検索を含めたレファレンスサービスのPR強化に努めてきたことと、日々カウンター業務の中でレファレンスサービスの集計や記録をさらに徹底するよう図ってきたことの効果だと思われる。特に今年度はレファレンス事例の集約を行い、図書館システムへの蓄積を進めた。今後は国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの登録に繋げるとともに、レファレンス事例の公開、e-レファレンスの利用拡大を目指してPR強化を図っていきたい。

今年度は以前より検討を重ねてきたパスファインダー（※1）を3種類作成した。レファレンスサービスの新しい案内ツールとして、市民への配布を予定している。

東日本大震災発生後、本市では最新の情報を市民に伝える必要性から市と図書館のホームページを通じ震災関連の情報発信を行うとともに館内に掲示し、各館においては資料展示を行った。また、「検索なび」特別編「東日本大震災関連情報について」（パスファインダー）発行を行ったほか、被災地からの避難者を対象に登録貸出をいち早く実施した（※2）。

※1 利用者が自ら調査や研究、日常の疑問を解決するための道しるべとなる、各テーマごとの調べものガイド

※2 新聞掲載 読売新聞 平成23年3月26日 「被災者に図書館開放」

豊中市立図書館パスファインダー **検索なび**

特別編「東日本大震災関連情報について」

東日本大震災により被害にあわれた皆様に心よりお見舞いを申し上げます

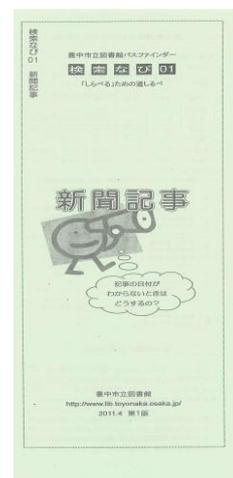
東日本大震災関連の資料について調べるためのキーワード

※カッコ内はNDC分類(ラベルの数字)

応急手当(598.4)	原子力災害(539.9)	原子力発電所(543.5)
地震・津波(453)	耐震対策(524.9)	地殻変動(455.8)
防災(369.3)	放射線(539.6)	ボランティア(369.3/369.7)

これ以外の資料も、どこの棚にあるかご案内できますので、職員におたずねください。

また、図書館の検索用端末(OPAC)やホームページから、書名などで資料を検索できるほか、表の数字を「分類」の欄に入れて関連の資料を検索することもできます。なお、検索結果が大量になることも考えられますので、必要に応じて出版年の範囲・キーワードなどをご指定ください。



⑦リクエストサービス

希望の本が書架に見当たらない時など、1人10点までの範囲でリクエストができる。

リクエストサービスの受付方法は、図書館カウンターでのリクエスト票によるもの、OPAC（館内利用者用パソコン）、Web（図書館ホームページ）と携帯サイトからの方法などがある。

平成22年度リクエストの総受付件数は754,554件で、前年度より31,516件の増加（対前年比4.4%増）である。次の縦棒グラフからも読み取れるように、カウンター・OPACでの予約受付件数は前年度からほぼ横ばいであるが、Webでの受付件数は、前年度より30,617件の増加（対前年比6.9%増）、携帯電話からの予約件数は15,344件となり、前年度より3,871件の増加（対前年比33.7%増）であった。

パソコン・携帯電話からの予約は、時間や場所に制約されない身近で手軽な方法であり、通信環境や機器の普及充実にともなって、今後も増加していくと思われる。

リクエストされた資料のうち、豊中市に所蔵していない資料については、他の自治体図書館等から相互貸借制度を活用して利用者に提供している。

平成22年度中に豊中市の図書館が他市の図書館から借り受けた資料は、6,855冊となり、他市へ貸出した資料は5,859冊であった。相互貸借によって利用者に提供された資料は、リクエスト受付件数の0.8%程であるが、市民へ資料提供を行う上では大切なサービスである。

予約冊数の推移（方法別）

